

熱い心、真の勇気で八王子改革！！

決断と実行

八王子市議会議員

いとうただゆき

伊藤忠之



ごあいさつ

皆様には今年も益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、常日頃から私の政治活動にご理解をいただきましてありがとうございます。

さて、11月30日から12月17日まで令和3年八王子市議会第4回定例会が開かれておりました。これまで同様、議会は新型コロナウイルス感染に配慮しつつ審議をいたしました。

定例会では、私は今回、一般質問の壇上に立ち、『生活道路の安全対策』について質問し、担当部長に答弁をいただきました。簡単にまとめて裏面にございますのでご覧ください。詳細は今後の八王子市議会HP会議録にございますのでそちらのほうでご確認ください。

会議録ページ⇒<https://www.city.hachioji.tokyo.dbsr.jp/index.php/>

緊急事態宣言は解除され、以前に比べコロナ陽性者の発表数は少なくなったものの、第6派やオミクロン株への市民の不安は消えません。みなさんが今、何に不安があるのか、何の支援が必要かを考え、しっかりと議会で発言をしてまいりますので変わらぬご指導をお願いします。

八王子市議会議員

伊藤忠之

皆様のご意見・ご要望、心よりお待ちしております。



八王子市議会議員

伊藤忠之事務所

〒192-0374

八王子市中山446

Tel:

(042) 674 - 8869

Fax:

(042) 674 - 7558

E-mail:

tadayuki802@gmail.com

HP:

[https://](https://www.tadayuki802.com/index.html)

www.tadayuki802.com/index.html

プロフィール 伊藤忠之(50歳)

- ・昭和46年八王子市中山生まれ。
- ・地元中山小・中学校を卒業、私立小松原高等学校卒。
- ・東京コカ・コーラボトリングにてサラリーマン生活を送った後、東花堂(葬儀社)にて経営を学ぶ。
- ・現在、中山在住、母、妻、長女夫婦、次女、孫の7人家族。犬1匹、猫1匹、メダカ3匹、金魚2匹
- ・市議会では：
八王子市議会4期
会派 市民クラブ
常任委員会 総務委員会委員
市長付属機関 まちづくり公社諮問委員
組合議会 多摩ニュータウン環境組合議員
その他 奨学審議会委員
- ・趣味 筋トレ(腹筋は特に苦手)
- ・好きな言葉 「今すぐ行動しなければ、10年経っても何もできない」

令和3年第4回定例会 一般質問より

◎生活道路の安全対策

【問】伊藤忠之 日本全体の交通事故の発生件数は平成16年をピークに減少傾向であり、事故の発生件数が多い都道府県は1位東京都 2位大阪府 3位愛知県と人口が多い都道府県が並んでいる。人口が多ければ、そのまちにはその分だけ人が動き、特に八王子は車社会であるのでその分、事故も多いのではないかと思います。そこで都内の交通事故件数はどのような状況か、市内の生活道路における交通事故の現状を問う。

【答】●道路交通部長 都内の交通事故について平成16年の8万4513件から令和2年の2万5642件と減少している。本市の交通事故については、都内における本市の交通事故割合と人口割合を比べると、事故割合のほうが若干高い傾向があるものの件数そのものは平成16年が3868件であったものが、令和2年には1154件と減少傾向である。

【問】伊藤忠之 交通事故発生状況の推移では、平成2年には64万3097件に対し、死者数は1万1227人であるが令和元年では発生件数38万1002件に対し、死者数は3215人となっており兩年を見比べると死者数は半分以下である。事故にも様々な事故があるがどのような種類の事故の変化があるのか。

【答】●道路交通部長 交通事故死者数を事故の状態別で見ますと、自転車乗車中と歩行中の事故の割合が年々高くなってきており、事故全体の約半分を占めている一方、自転車事故の減少幅は大きく、事故全体に占める割合は減少傾向である。

【問】伊藤忠之 第11次八王子市交通安全計画では、高齢者の交通安全の確保の主な施策として、高齢者団体や支援組織との連携、情報提供、講習会の拡充とあるがどのように広げられるのか、例えば高齢者団体とはシニアクラブを想像するが、近年ではシニアクラブの解散や会員数の減があるがどのように講習などの施策を進めていけるのか。都内の自転車事故では交通事故数の約4割を占めており年齢別では高齢者最も多く、それに続き40代となっている。この40代の市民への対応をどのようにするのか。

【答】●道路交通部長 シニアクラブや高齢者サロン等、高齢者が多数集まる場所での交通安全教育をはじめ、交通安全協会による独り暮らしの高齢者宅を訪問しての安全指導など、多くの方に行き渡るようなきめ細かい対応をしていく。

交通安全教育は対象に合わせた教育内容とすることにより、学習効果の充実を図っていくことが重要。様々な機会を通じて自転車安全講習会を実施している。また、就業されている方々への配慮として、安全教育を平日の夜間や休日にも実施しており、引き続き工夫を凝らしながら参加機会を広げるよう取り組む。

【問】伊藤忠之 平成24年に自転車は車両であり、車道通行が大原則と決まった。しかしながら、現状の道路幅員によって対応できる箇所、できない箇所はある。特に鉄道駅への通勤・通学ルートは対応できるなら早期に、できない箇所はそれに代わる推奨ルートを発見し、市民へ提案するべきでないか。

【答】●道路交通部長 令和2年4月から行っているシェアサイクル実証実験から得られるビッグデータを活用し、今後そのビッグデータを分析することで車道幅員などの道路状況に合わせた適切な手法を選定し、新たな整備を行うとともに、整備が困難な狭隘道路については推奨ルートなどを見出していきたい。

【問】伊藤忠之 自転車は車道を安全に走行できるよう設計されぬまま、自転車は車両であり、車道通行が大原則と決められました。今後はその考え方にに基づき、本市の道路建設を進めるべきであるがいかがか。

【答】道路交通部長 今後、整備が予定されている都市計画道路につきましては、計画段階より自転車利用を想定した道路計画となっております。一方、既設道路や幅員の狭い生活道路においては、自転車走行空間に必要な道路幅員が確保できないことから自転車ナビマークやナビラインなどで自転車が通行すべき方向を示していきたい。

【問】伊藤忠之 最後に国の計画の基本理念である「高齢になっても安全に移動することができ、安心して移動を楽しみ、豊かな人生を送ることができる社会、さらに年齢や障害の有無などに関わりなく安全に安心して暮らせる『共生社会』を構築する。【高齢化が進展しても安全に移動できる社会の構築】」と示されている。この基本理念、目標達成のための決意を伺う。

【答】道路交通部長 高齢化の進展に伴い、高齢者の関与する交通事故割合も年々高まっている中において、安全に移動するこのできる交通環境や交通事故のない安心した暮らしの実現のためには、ゾーン30の整備や信号機のバリアフリー化など、道路交通環境のさらなる整備と交通安全意識を広く浸透させていく活動のハード・ソフト両面での対策を一体的に進めていくことが重要だと考える。今後も道路管理者として様々な関係機関・団体と連携しながら、全力で取り組む。

毎週月曜日更新。一般質問等の概要のテーマ増やしました。ぜひご覧になってください。

伊藤忠之オフィシャルHP

tadayuki802

で

検索

